

包摂的な社会の実現に必要なこと

愛媛県立西条高等学校 3 年 佐藤 怜

包摂的な社会とは、どのような社会を指しているのだろうか。まずは、「包摂」という言葉について考えていこうと思う。「包摂」とは、一つの事柄をより大きな範囲の事柄の中に取り込むことである。考え方の具体例としては、異なる意見や立場、文化や価値観などを受け入れ、調和を図ることが挙げられる。つまり、包摂的な社会とは、障害や性別、人種、年齢などの差異に関係なく、すべての人を排除せず、全員が社会の一員として尊重され、ともに生活していくことのできる社会のことであると言える。この社会が実現すれば、全員が生きやすい社会となり、差別や偏見に苦しんでいる人々がいなくなる。それを実現するためには、様々な考えや事情を考慮、個々の違いを認め、受け入れていく多様性の尊重が大切になってくる。

制服の多様化もその一例である。私は高校の課題研究で、校則について研究した。この研究の際、「ルールメイキング」という手法を用いて、制服や校則について見直すことにした。ルールメイキングとは、立場や意見の違う人たちとの対話を通して「納得解」をつくるプロセスを経て、ルールを見直していく手法のことである。まず、過去に生徒会に送られた校則に関する意見を見せてもらい、靴下がワンポイントでないといけないのはなぜか、女子の夏用ブラウスに半袖がないのはなぜか、といった生徒の疑問を把握することから始めた。その結果、制服に関する意見が多く寄せられていることが分かった。制服に関する問題は、暑さによる熱中症の危険があったり、寒くて体調をくずしたりなど、命に関わる問題にもなると考えた。また近年、制服の多様化が進んでいる学校も多いが、わが校の制服は女子がスカート、男子がスラックスという選択肢しかなかった。また女子の夏服に半袖がない。それに疑問を抱いた私たちの班は、多様性を認めた制服が必要なのではないかと感じた。この2点から、制服の改善を目標に本研究を進めていくことにした。

まずは、ルールを変えていく方法を学ぶために、市内の学校の谷口先生に話を聞いた。谷口先生は、全国で9人しかいない、ルールメイキングの実践・普及に取り組んでいるルールメイキングアンバサダーである。先生は、御自身の学校で、校則改定のサポートを行っており、研究の助けになることを聞くことができた。その中で、学校の問題は全校生徒に関係のある事だから、私たちが行っていることを生徒に知ってもらうことが大切だ、と教えていただいた。そこで、ルールメイキングとは何か、私たちは何をしているかを伝えるワークショップを開催した。ワークショップ中、ルールメイキングの手法を体験してもらうために、今の校則について、不満に思っていることを書き出して、発表してもらった。こちらの狙いとしては、その不満をどう解決していけばよいか、というところまで考えてほしかったが、互いに不満をいうだけで、意見がぶつかり合うだけで終わってしまった。その時に、互いの意見を尊重しつつ、何かを変えていくことの難しさを感じた。校則

を変えらるとなると、教員の意見も無視はできない。生徒と教員の意見の折り合いをつけるのも大事になってくるため、そこも難しいポイントだと感じた。このようにうまくいかないことも多かったので、このワークショップは成功とは言い難い結果となってしまった。だが、このワークショップで多く出た意見を基に研究を進めることもできた。それが、女子が制服のズボンについてだ。やはり、生徒自身も制服に関する問題は、関心が高いということのを再認識した。そこで、スラックスをいくつか試作し、ファッションショーを行った。しかし、どのスラックスも既存の女子の夏服ブラウスと合わなかった。そのため、女子の新夏服として、男子が着用している青シャツの半袖の導入が決まった。その際、既存の女子の夏服デザインを廃止してもいいのではないかと、という意見が出た。しかし、その意見に対して、そのデザインは伝統あるデザインだから残すべきという意見が出た。このように、対立した意見が出たとき、互いの意見を尊重するのは厳しくなってくる。結果、どちらのデザインも採用され、女子の制服のパターンが増えることになった。しかし制服とは、自身の所属を示すものである。だから、第三者が見たときに、どこに所属しているかわかりにくいという意見も聞く。伝統も守られたし、多様性も尊重されたが、このように別の問題も発生してしまった。この問題をなくすために、もう少し議論を重ねてもよかったのかもしれない。

その後複数あったスラックスのデザインから1つのデザインに絞られ、様々な課題に対応できるように、制服の多様化を図ることができた。この研究を始めて1年後、女子の夏用制服の半袖、冬用スラックスを着用できるようになった。この研究は、様々な立場の人が納得するような答えを導くことを目標としていたため、一つ一つの過程で、様々な人の意見を聞くように心がけていた。だから制服の改定には1年という時間がかかった。多様性を尊重するためにはその過程が大切なのだ。小さなコミュニティである学校内で、多様性を尊重するための改変に1年という時間がかかったのに、それを国単位、世界単位で変えていくとなると、もっと長く時間がかかるだろう。だからこそ、地域同士が、国同士が、手を取り合い、多様性を尊重できるようにしなければならない。しかし、現時点で国同士、地域同士の取り組みは不十分である。もっと国同士の交流を盛んにすべきだ。

包摂的な社会とは様々な立場の人が排除されずともに生きていくことのできる社会のことである。この社会を実現する必要がある。そしてその実現に必要なことは、多様性の尊重が大切だ。だが、まだまだこの取組は進行していないと言わざるを得ないのが今の現状だ。これらの現状を変えていくことは、とても時間がかかるだろう。だから、この包摂的な社会の実現は簡単にはできない。しかし、実現しようと行動し続けなければならない。社会を現状から変えることは簡単ではない。だが、変えようとしていくことが大切だ。そうして、様々な人が排除されず、ともに生きていくことができれば、世界中の人が生きやすくなる。母国であろうが、なかろうが、差別されることはなくなるし、男子だから、女子だから、と差別されることもなくなる。そのような社会を実現するために一人ひとりが行動していくべきだ。私自身も、以前行った課題研究もように、自分できることをしてい

きたい。そして、あらゆる人が排除されず、ともに生きていける包摂的な社会を実現したい。